

9月17日(木)

おはようございます。

今日は少し天候が悪いのでマイクによる朝礼になりました。以前もお話をしましたが、私の姪が関西学院大学の国際学部からオックスフォード大学へ短期留学しました。留学の感想を聞いたところ、非常によかったということでしたが、ちょっと自分は感じたことがあると言うのです。それはどういうことかという、日本人は、きっちり分からないと何も言わないというところがあり、これまでは慎ましい美德とされてきたけれども、これはむしろ日本人の悪いところなのではないかというのです。前向きにチャレンジしていかなくてならないのに、完璧に答えられないのであれば何も言うてはいけないというような雰囲気があり、その気持ちが海外での活動とか学びを少し阻害しているような感じがする。だからそれは改善しないといけないのではないかと思うという話でした。なるほどと思います。

日本の学生は、わからないということが言えない傾向があります。とは言っても、「君この問題にこれ答えて」と言われて「わかりません」ということが言えないということではありません。先生の説明をみんなはきっちり理解しているのに、自分は十分に理解できていないというようなときに、先生のところに行って、「先生すみません。僕はわかりませんでした。どういうことなのでしょう。」と質問することができないのです。さらに、そのように質問をして、先生に説明してもらってもまだわからなかったら、「先生すみません。説明していただいたのですが、まだよく分かっていないのです。」というようにしつこく聞いて行くことが非常に苦手なのです。これが理解を大幅に阻害しているというわけです。

最近、アクティブラーニングということが盛んに言われています。諸君も聞いたことがあるかもしれませんが、アクティブラーニングとは双方向的学習、すなわち、先生の言ったことに対して生徒が応答するということが、その活動のもっとも基本的なところ、肝要な点です。要するに、自分がわからない疑問を、きちんとごまかさずに、わからないということをも認めた上で、質問することができるかどうかということです。

完全に理解できていないと質疑してはいけないというような雰囲気もありますけれども、わからないということを引きつり主張していくことが大事で、説明を聞いてみんなはわかったようだが、自分だけがわからなかった。自分だけわからないのは、なにか格好悪いので、わかったような顔しているというのは意味がないのです。わからなかったらきちんと先生に質問に行く。そして、説明をしてもらっても、まだわからないのであれば、まだそこで粘る。「すみません。せっかく先生に説明してもらいましたが、まだわかりません」という具合に。それが言えるようになってきたら、理解も深まってきますし、

疑問の解き方もわかってきます。

また、これからの時代はコミュニケーション力が必要だと言われています。友達とのコミュニケーションだけではありません。上司や先生とのコミュニケーションもきちんととれなくてはならないわけです。これは、おもしろい冗談が言えるといったことではありません。自分がよくわからないことを上手にきっちり相手に伝えることができるということです。こういった能力が、これから大切になってくると言われています。そういう意味で、諸君等もわからないところをそのままにせず、「わかりません」と恥ずかしがらずにはっきり言えるようにならなくてははいけません。授業中に当てられて、「わかりません」と言った。そしてそれをそのままにしておくというのはダメなのです。わかるまで、先生のところまで行ってちゃんと聞く。それでも十分理解できない場合は、粘り強く聞く。これは粘り強く考えるということにもつながるのです。ひとつ、疑問をそのままにしないで、先生方にきっちり質問をする勇気を持ってください。君たちが教えてもらうために先生方はいるわけですから、必ず教えてくださいます。どうか積極的に質問に行くようにしなさい。これからの時代は、この積極性が大切なのだらうと思います。心に思い当たるところがある子は、ひとつ今日からでも実践して欲しいと思います。今朝の話はこれで終わります。

(学校長)